

THE RUINS OF KAMAISHI

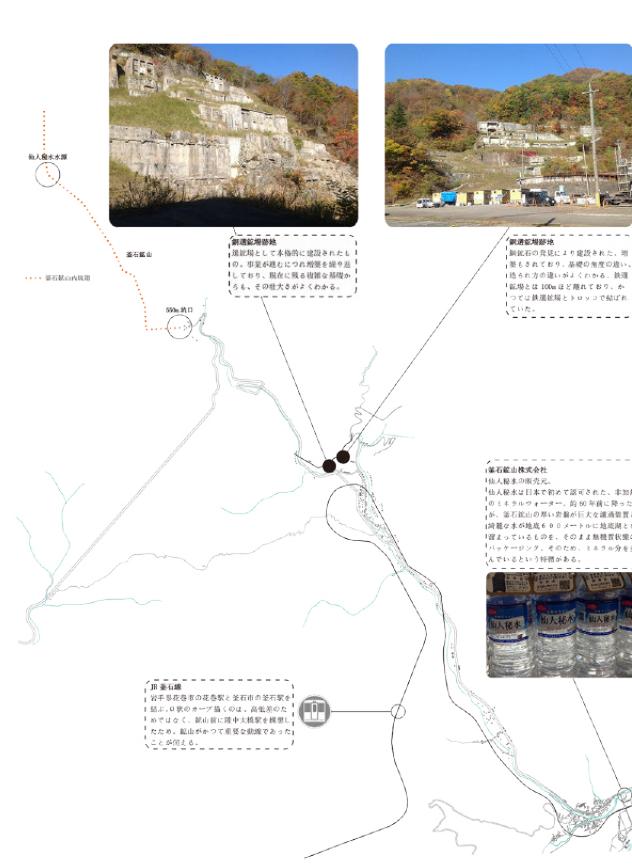
荒廃の未来“廢墟”のその後へ



Kamaishi / Textures



Left: 鉄選鉱場 / Right: 銅選鉱場



SITE MAP

岩手県釜石市

釜石は釜石港という大きな港がある。この港が町の中心として存在しているので、釜石駅や市役所、ホテルなどの中心的な機能も港に集中している。港から伸びる釜石街道が町の軸としてこれほどはっきりと現れていることは特徴といえるだろう。釜石鞍山は通町から車で20kmほどの位置にある。通町駅の跡地は釜石山株式会社の所有物であり、かつての家の基礎部分を残して、今も路面地に住民の魅力を生み出している。この場をカメラに収めようと、キャンピングカーなどでやってくる者も珍しくはないほどマニアの中では有名な場所である。



PROGRAM

ワイスクリー薬留所と宿泊施設

今なお湧き続ける大温水「釜人秘水」、豊富な木材の資源、多くの薬草栽培場への利点となることがこの土地の特性である。また運送場という構造を実存する事で、この廃墟の歴史的アイデンティティを建築において継承することで、他には例のない場を持つ。

それを実現するために、プログラムを宿泊施設と「ワイスクリー薬留所」とする。宿泊施設では、現存する産業遺構が町の中心部からのアクセスがやや不便なことから、新たな中心部を創出させることを目的とする。ワイスクリー薬留所では、釜石に存在する豊富な水資源、木材、そしてこの場所が銅鉱石を採掘できることが重要なポイントとなって、新たな生産の場を創出させることが目的である。



カル
基材となる六木をビートによって挽いてます。



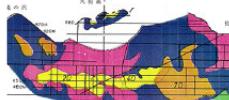
蒸留
未かけられた丸搗をハスク(粗挽き)、グリップ(細), フラワー(中)にわける。比率によって完成された穀も蒸留化する。



精留
挽留された大麦を醪によつてゆっくりとろ過する。ヨードヒルトのイメージに似る。



熟成
エースト樽を覆することで、失敗ダメージを減らす。失敗ダメージを減らすことで体内に活性化し出るおそれのあることを防ぐ。21ヶ月の少く3ヶ月、1Pより入り禁止といふルールをあさう。



釜石大木
釜石の木を使用した発酵槽・貯蔵槽
釜石藍山から銅鉱石を入し蒸留器へ



+ 釜石近代化産業遺産
— 主なアクセス道路
■ 市街地主要建物
● 敷地（選択範囲地）



釜石金銀製錬所
現在は廃止の生産拠点。



釜石港
(昭和7年に臨港鉄道と接続させられ、1万トン級船舶が入港できるようになる。現在は主要港湾、港町としての地位を確立している。)



株会社釜石中央
釜石市釜石一丁目2番屋敷。地元で知らない人はいない。釜石藍山から生まれた天然水(釜石水)を瓶詰めして販売している地酒。



株会社釜石中央
釜石藍山の銅鉱石を引抜き、釜石で精錬。地元で知らない人はいない。釜石藍山から生まれた天然水(釜石水)を瓶詰めして販売している地酒。

釜石港



(昭和7年に臨港鉄道と接続させられ、1万トン級船舶が入港できるようになる。現在は主要港湾、港町としての地位を確立している。)

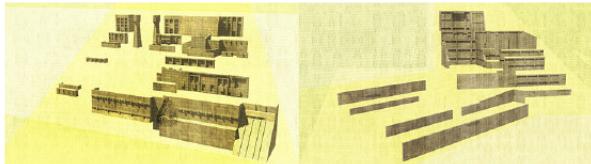


5.0km 10.0km 20.0km 30.0km

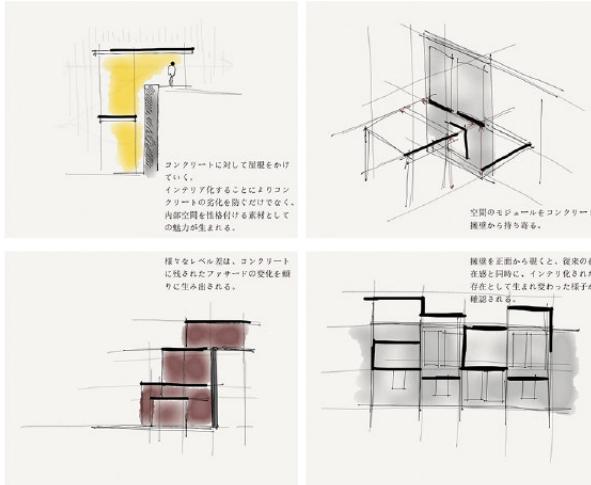
DESIGN METHOD

鉄道駅場の痕跡を設計に取り入れる

鉄道駅場におけるプログラムは、ワイスクーラー蒸留所と宿泊施設、及びそれに付随したバー・レストラン、温泉等が挙げられる。それぞれに残されたコンクリート基礎、構造をいかにインテリゲント化していくかということが全体を通して設計の手掛かりとなる。また、構造には様々な特徴的なファサードが残されているので、空間のモジュールや階高など、設計の手掛かりとしていく。



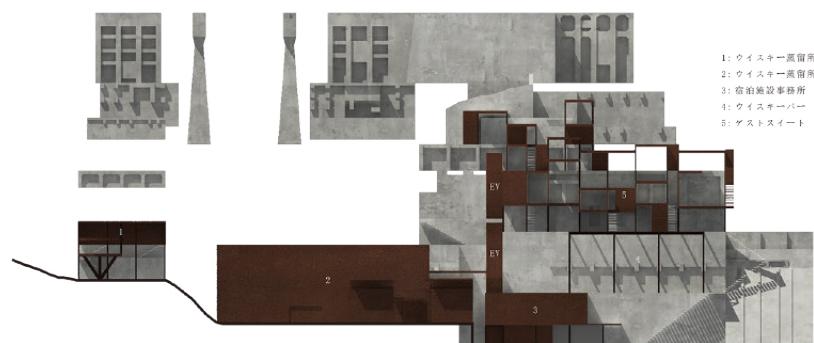
Left: 鉄道駅場 / Right: 設計駅場



ELEVATION

庫壁の特徴的なファサードが建築の横顔をつくりだす

- 1: ウイスキー蒸留所事務所
- 2: ウイスキー蒸留所
- 3: 宿泊施設事務所
- 4: ウィスキーバー
- 5: ゲストスイート



鉄道駅場施設立面計画図 S=1/300

SITE PLAN

使われなくなったトロッコを再利用し動線に利用する



RENOVATION

廃棄トロッコの利用

かつて釜石駒山の坑道を鉱石を積み走っていたトロッコは、今も多くが残されており、リノベーション可能である。今設計計画では、鉄道駅場と鋼鐵駅場を結ぶための動線手段としてトロッコを利用する。

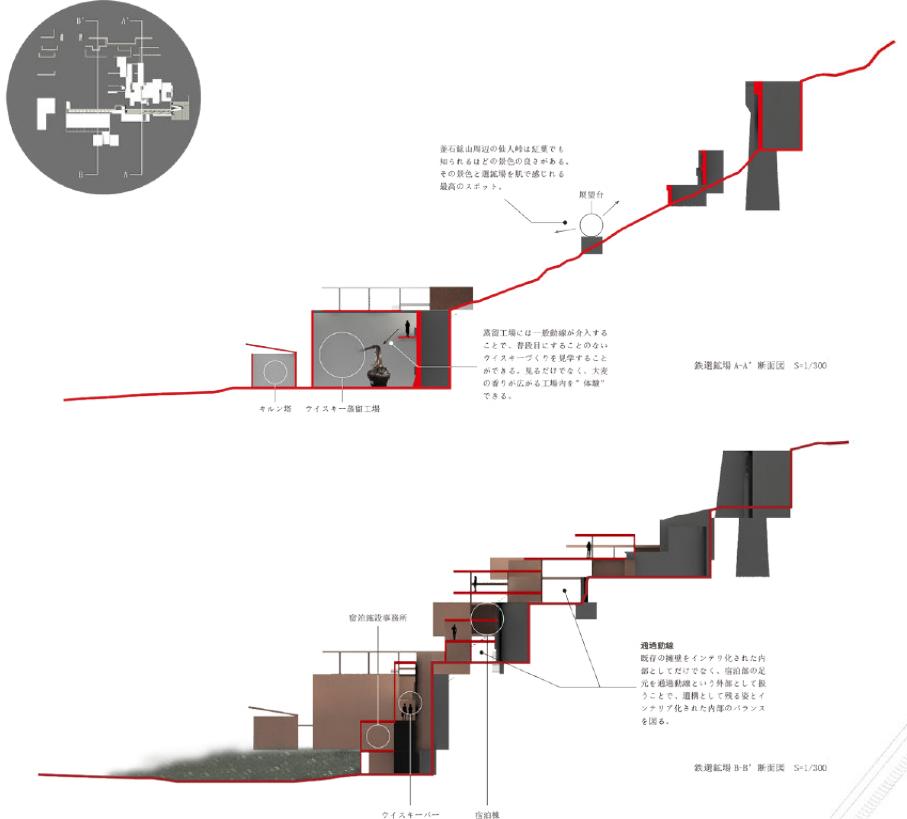
具体的には、宿泊客用と導遊用、そして仙人谷水を水源から高層への運搬用の3種類に分けられる。



鉄道駅場施設立面計画図 S=1/300

SECTION

鉄道駅場跡地を利用したウイスキー蒸留所と宿泊施設



PERSPECTIVE

痕跡をインテリア化する

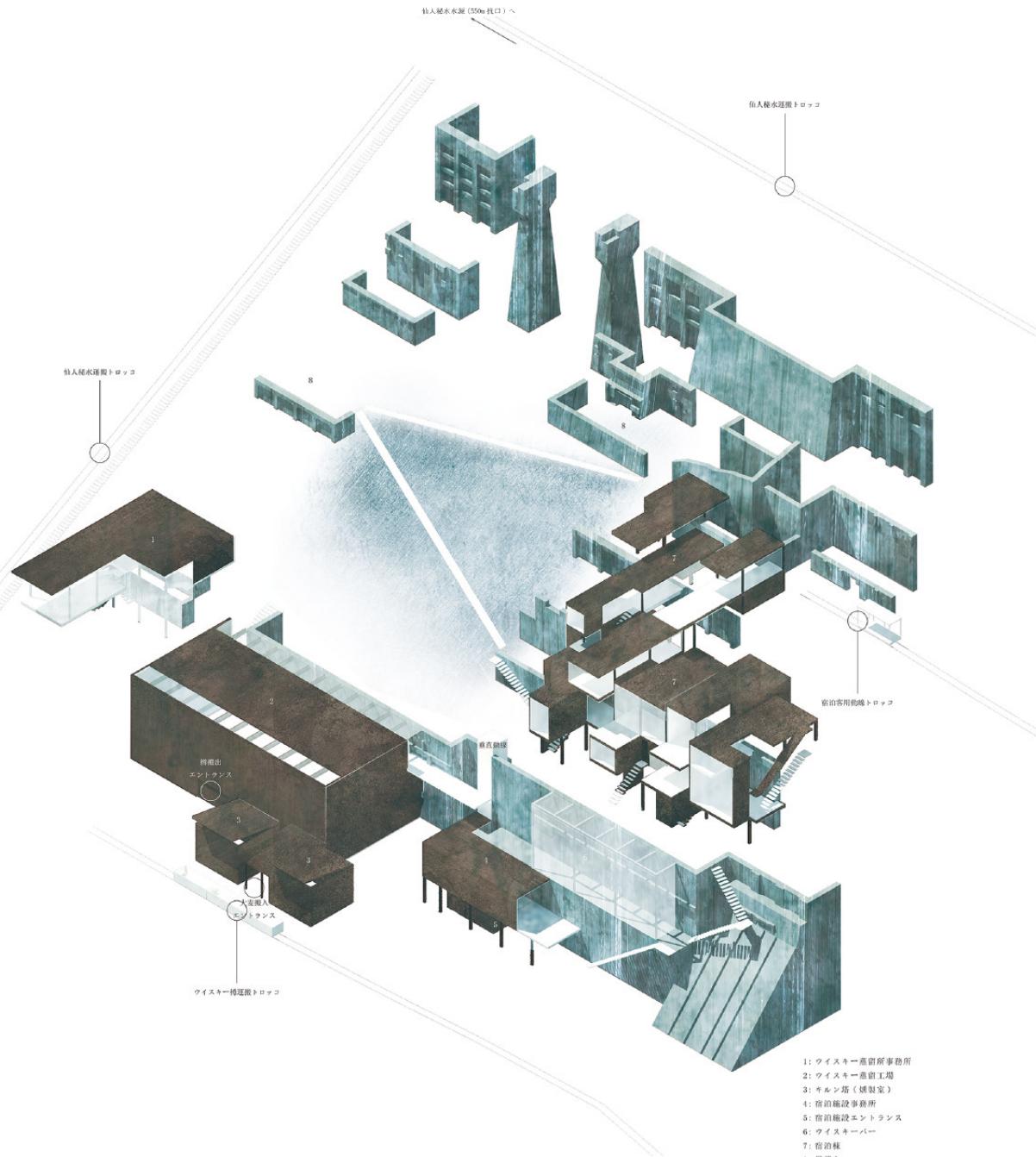


- 1: ウイスキーバーの様子。ガラスで覆われた空間が既存の擁壁をより強調する。
- 2: ウイスキー蒸留所に介入する見学動線、蒸留所を体験できる。
- 3: 鉄道駅場跡地、擁壁に対して屋根を架けていくだけで魅力的な空間を生む。



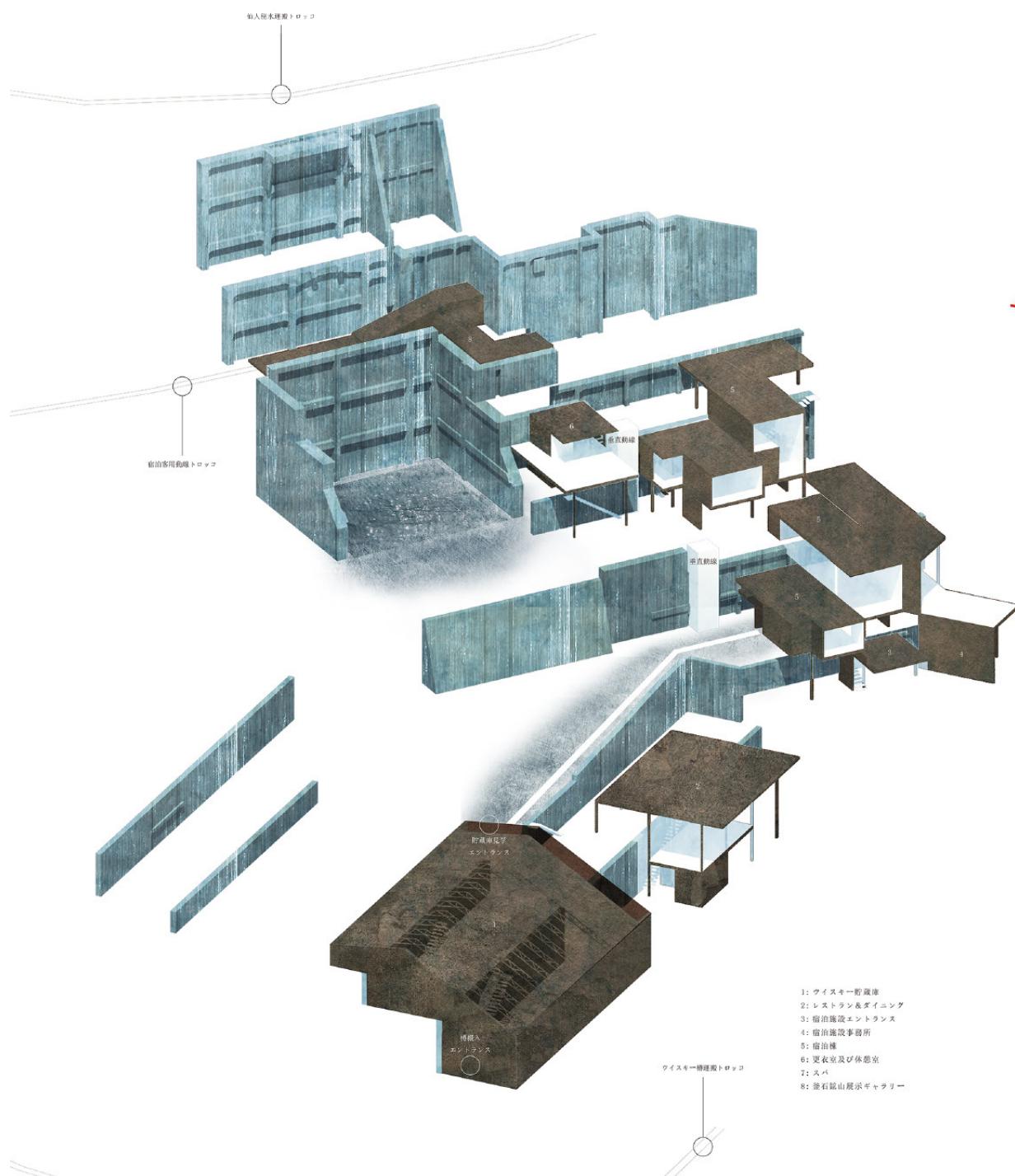
ISOMETRIC

鉄道駅場跡地を利用したウイスキー蒸留所と宿泊施設



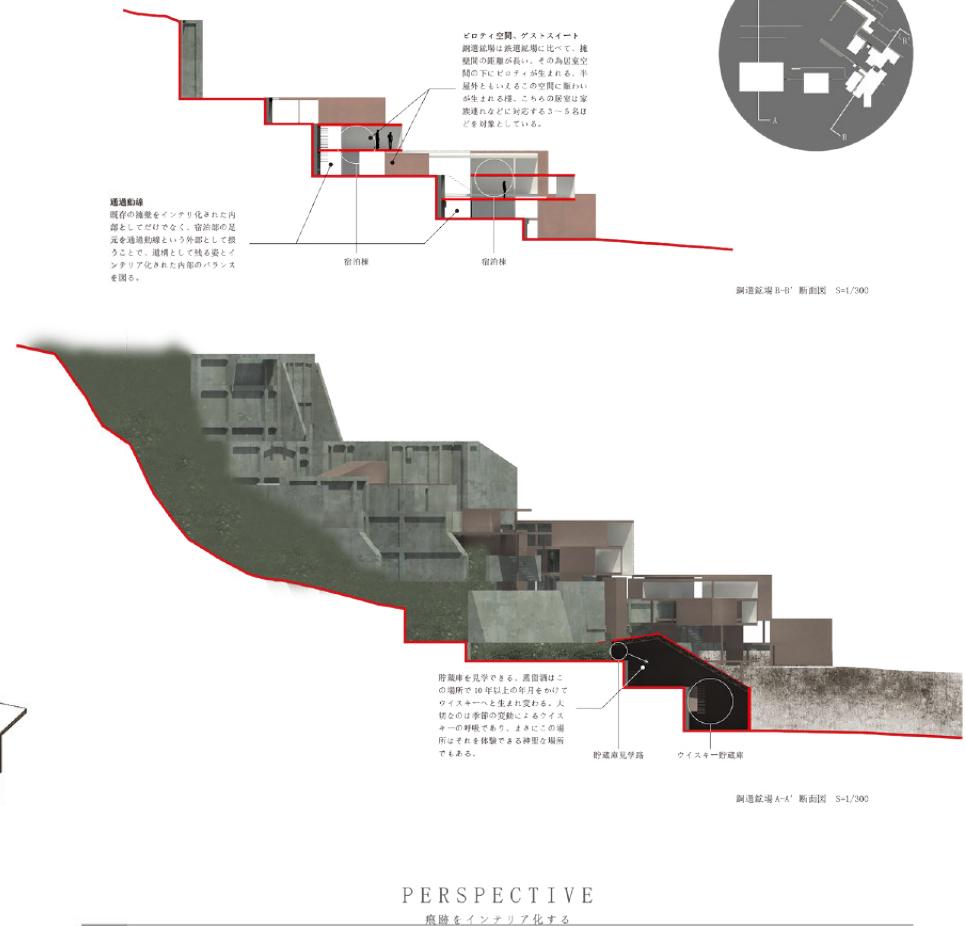
ISOMETRIC

銅道駁場跡地を利用したウイスキー貯蔵庫と宿泊施設及び釜石銅山展示ギャラリー



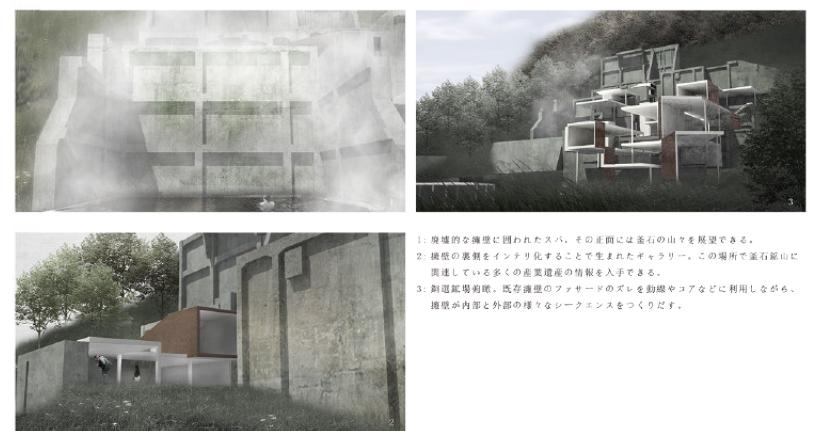
SECTION

既存擁壁の粗さがその存在感を人々の視覚に強調される



PERSPECTIVE

廃駁場をインテリア化する



- 1: ウイスキー貯蔵庫
- 2: レストラン&ダイニング
- 3: 宿泊施設エントランス
- 4: 宿泊施設事務所
- 5: 宿泊棟
- 6: 更衣室及び休憩室
- 7: スパ
- 8: 釜石銅山展示ギャラリー

- 1: 壮麗な彫刻で囲まれたスパ。その正面には釜石の山々を望むできる。
- 2: 銅道の裏側をインテリア化することで生まれたギャラリー。この場所で釜石銅山に関する多くの産業遺産の情報を入手できる。
- 3: 銅道駁場駁壁。既存擁壁のフォルムを駁接やコアなどに利用しながら、構造が内部と外部の様なシーケンスをつくりだす。